

第2回 府中市男女共同参画推進協議会 議事録

- 日時 令和5年7月21日(金)午前10時から11時30分まで
- 会場 男女共同参画センター 会議室2
- 出席者 (委員)
内海委員、藤山委員、漆原委員、芦沢委員、大室委員、内藤委員、
深澤委員、松本委員、水橋委員、横森委員
- (事務局)
阿部女性活躍推進担当副参事、大神田男女共同参画推進係長
(株)都市環境計画研究所)
大竹氏、庄司氏
- 欠席者 向井委員、西條委員
- 傍聴者 0名
- 議事 1 報告事項
(1) 令和4年度 府中市男女共同参画センター「フュール」業務概要について
(2) 令和4年度 府中市男女共同参画市民企画講座アンケート結果について
- 2 審議事項
第7次府中市男女共同参画計画策定に係る市民意識調査について
- 3 その他
- 資料 1 令和4年度 府中市男女共同参画センター「フュール」業務概要
2 令和4年度 府中市男女共同参画市民講座 アンケート結果
3 市民意識調査 調査票(案)
4 令和4年度第1回府中市男女共同参画推進協議会 議事録(案)

【会長】

定刻より少し早いですが、第2回府中市男女共同参画推進協議会を開会いたします。まず、事務局から本日の委員の出席状況の報告、傍聴者の有無、配付資料、そして本日の流れについてご説明をお願いします。

【事務局】

本日の出席状況でございますが、向井委員、西條委員の2名から、欠席のご連絡をいただいております。現在、定数12名中10名の委員の皆様に出席をいただいております。出席者が過半数を超えておりますので、本協議会は有効に成立していることを併せてご報告いたします。

第7次府中市男女共同参画計画の策定支援ということで、株式会社都市環境計画研究所に委託業者が決まりましたので、本日は大竹氏、庄司氏にZoomで参加してもらっています。

なお本日の傍聴ですが、申込みはございませんでした。

【事務局】

続きまして、本日の資料の確認をさせていただきます。

本日の資料一式は事前に送付をさせていただいております。また、併せて、第6次の男女共同参画計画の冊子、令和5年3月の答申をご持参いただくよう、ご案内しております。次第に記載しました「資料4 施策推進状況調査 調査票(案)」につきましては、計画策定支援業務のコンサルタント会社と協議し、骨子案作成後に実施することとなったため、本日の配付は無くなりましたのでご承知おきください。

お手数ですが、次第の「2 審議事項」の「及び施策推進状況調査」の文言削除と、資料一覧から「資料4」の削除もお願いします。

本日の会議資料は以上でございます。

本日の流れにつきまして、報告事項2点、審議事項1点になります。

以上でございます。

【会長】

それでは、次第に沿って進めます。

次第の1 報告事項

(1)令和4年度 府中市男女共同参画センター「フューラル」業務概要について、

(2)令和4年度府中市男女共同参画市民企画講座アンケート結果について事務局より説明をお願いします。

【事務局】

次第の1 報告事項 (1) 令和4年度 府中市男女共同参画センター「フチャール」業務概要についてご説明いたします。

資料1「府中市男女共同参画センター「フチャール」業務概要」をご覧ください。時間も限られておりますので、主な事業報告についてご説明いたします。

資料の6ページ「5事業報告」をご覧ください。

令和4年度の施設利用状況につきましては、来館者数が35,412人と、昨年度と比較し、9,249人増加しております。女性問題相談の件数も1,492件と、昨年度と比較して198件増加しております。いずれも、コロナによる制限が緩和される中で、利用者数が増加したと推察します。

なお、協議会からもご意見いただいております「男性の利用者数」につきましては、資料にはございませんが、コロナ前の令和元年度の男性の利用者数が11,413人で、令和4年度は11,158人と、人数ではコロナ以前に近い利用者数となっております。

引き続き、男性をターゲットとした講座の開催や、施設の周知に努め、男性にも利用しやすい施設を目指し、運営方法の検討をしてみたいと思います。

次に、7ページの「【参考資料】講座等実施状況」をご覧ください。こちらから12ページまで、年間の講座実績を掲載しております。

11ページをご覧ください。フチャールにおける各種講座も開催数を増やしており、年間で53講座、講座回数は延191回、参加者数は延べ3,120人です。

なお、実行委員会が市と協働で開催する府中市男女共同参画推進フォーラムは、会場及びオンラインにて開催しまして、延べ726名の方にご参加いただきました。

時間の都合もございますので、講座の詳細につきましては後ほどご確認ください。

説明は以上でございます。

続いて、(2)令和4年度府中市男女共同参画市民企画講座アンケート結果についてご説明いたします。

カラダも心もスッキリ元気教室～心が動く介護予防教室～『コロナ禍に深刻化するフレイル&コミュニケーション問題に対処して』

男女共同参画進計画における「人権が尊重される社会の形成」分野の「生涯を通じた健康支援の啓発」として実施しており、昨年度の参加者数は37名です。昨年度は、アン

ケート集計をされておりましたが、今年5月開催のアンケート結果は提出されております。今年度については、参加者21名中、約76%の方が「とてもよかった」と回答しております。その理由としては、

- ・固まっていた脳がやわらかくなった
- ・新しいことへのチャレンジやってみます、心が楽になり参考になった

との意見が出ております。

パパと一緒にリトミック

男女共同参画推進計画における「ワーク・ライフ・バランスの推進」分野の「子育て支援」の促進として実施しており、参加者、父親26人子ども26名の合計52名(26組)です。こちらも昨年度は、アンケート集計をされておりましたが、今年5月開催でのアンケート結果は、提出されております。今年度については、参加者11組、父親11人すべてが回答されており、約45%の方が「とてもよかった」と回答しております。その理由としては、

- ・娘が楽しそうだったので、とても楽しく過ごせました。
- ・音楽に合わせて体を動かすことが子どもと一緒にできる機会があり良かったです。

との意見が出ております。

パパも一緒にコラージュ遊び

男女共同参画推進計画における「ワーク・ライフ・バランスの推進」分野の「子育て支援」の促進として実施しており、昨年度の参加者42名です。アンケートは、23名が回答しており、全体の88%の方が「とても満足」と回答しています。

- ・イベントの予定がわかれば、ぜひまた参加したいです。
- ・楽しかったが、半日ほどあればなお良かった。

との意見が出ております。

一緒に話そう・仲間を作ろう in ふちゅうの子育て

男女共同参画推進計画における「ワーク・ライフ・バランスの推進」分野の「子育て支援」の促進として実施しており、参加者11組(母・子 合計22名)が参加です。アンケートは、11組の母親11名全員が回答しており、全体の72%の方が「とても満足」と回答しています。

- ・旦那の偉大さが分かり、有意義な時間でした。
- ・みんな悩む所は一緒に、気持ちが楽になり前向きになった

との意見が出ております。

働く女性応援！「私らしく生きるためのライフ&マネープラン講座

男女共同参画推進計画における「ワーク・ライフ・バランスの推進」分野の「仕事と

生活の両立支援」の啓発として実施しており、参加者数は 47 名です。アンケートは 17 名が回答しており、全体の 47%の方が「とても満足」と回答しています。

- ・住宅資金と老後資金の詳しいセミナーがあれば参加したい。
- ・iDeCo についてもっと教えてほしい。

との意見がでております。

子どものいる暮らしの中でワークライフバランスを考えよう

男女共同参画推進計画における「ワーク・ライフ・バランスの推進」分野の「仕事と生活の両立支援」の啓発として実施しており、参加者は、10 名です。アンケートは、参加者 10 名とファシリテーター 4 名が回答しており、全員より「とてもよかった」との回答があります。

- ・他の人と話す事で自分の考えも整理できスッキリした。
- ・情報共有できた。託児所があって大変助かった。

との意見がでております。

男女平等の視点から見る「女性の労働」～セクハラ、マタハラ、雇用差別を考える～

男女共同参画推進計画における「あらゆる分野における男女共同参画」分野の「労働の場における男女共同参画」の啓発として実施しており、参加者は、オンライン 12 名、会場 4 名 合計 16 名です。アンケートは会場で実施し、4 名全員が回答しており、3 名よりとてもよかったとの回答があります。なお、理由についてのご意見はなかったとのことです。

育児講座 パパと遊ぼう

男女共同参画推進計画における「ワーク・ライフ・バランスの推進」分野の「子育て支援」の促進として実施しており、参加者は父親 7 名子ども 7 名 合計 14 名(7 組)です。

アンケートについては父親 7 名全員が回答しており、70%を超える方が「とてもよかった」と回答しております。その理由としては、

- ・子供の行動分析をして頂き、今後の参考になりました。
- ・家の中にある物を使っての遊びを教えてくださいました。

との意見がでております。

実践講座 絵本と語り～昔話や絵本の読み聞かせで地域活動を！～

男女共同参画推進計画における「あらゆる分野における男女共同参画」分野の「市民協働における男女共同参画」の促進及び、「ワーク・ライフ・バランスの推進」分野の「子育て支援」の促進として実施しており参加者は 46 名です。この団体のアンケートについては、別紙のような自由回答となっております。主なものとしては、

- ・絵本や昔話の面白さを再確認しました。
- ・グループで一つのおはなし会を作る楽しさを感じました。
- ・これからもグループでの活動をしたいです。

とのご意見をいただいております。

パパ&ママのためのコミュニケーション術～イラッとした時の対処法と伝え方～

男女共同参画推進計画における「ワーク・ライフ・バランスの推進」分野の「子育て支援」の推進として開催しており、参加者は19名です。アンケートは13名が回答しており、11名が興味深かったと回答しております。また、独自のアンケートのため、その理由等は記載がありませんでした。

説明は以上でございます。

【会長】

報告事項2点について、説明が終わりました。委員の皆様からは、質問、確認等はよろしいでしょうか。

【委員】

6頁の「相談状況」で、令和元年度と比べると令和4年度は1.5倍ほど件数が増えています。何か傾向の変化はありますか。

【事務局】

DV関連については殆ど変わっていないのですが、コロナ禍の中で、先行きの見えないうことへの不安や、配偶者の在宅勤務で一緒に過ごす時間が増えたゆえのストレスで、相談件数が増えています。1回の相談では終わらず、複数回相談を受けることもあり、増加傾向にあると推察しています。

【委員】

男女問わず、コロナによるパンデミックブルーを乗り越えていくためにも、相談員に話を聞いてもらえる機会があるのは非常に良いことだと思います。特に男性の働き方の変化については、今後も注視していくべき課題だと感じました。

【会長】

他にご意見、ご質問はありますか。

【副会長】

6頁の「施設利用状況」で、この施設の目的に合った使い方がどのくらいできているのかを知るために、来館者数3,500人の内訳をざっくりでよいので教えて頂けますか。

【事務局】

手持ちの資料では内訳が分かりかねますので、後日、改めてお知らせします。

【委員】

昨年より1,000人ほど受講者が増えているのは、オンライン受講者の影響でしょうか。

【事務局】

対面と合わせてオンライン（Zoom）でも受講可能なハイブリッド型の講座を増やしています。受講者が増えたのは、その影響もあると思います。

【委員】

相談についても、今後はオンラインでの相談も可能になると、更に相談しやすくなるのではないかと思いました。

【事務局】

現在、対面と、電話での相談を受け付けており、日中に加えて、週2回は夜9時まで、あとは土曜日の相談も受け付けております。オンラインでの相談受付には専門の資格等が必要なため、現在、対応はしておりません。

【会長】

資料2の市民企画講座のアンケート結果については何か質問や意見はありますか。

【委員】

アンケートを必須にしていないのは、何か理由があるのでしょうか。

【事務局】

理由があるわけではないのですが、プラッツでもアンケートを必須としていないので、「現状は必須にしていない」というだけです。

【委員】

講座の内容や参加者の集まり具合によってアンケートの結果にばらつきがあるのは仕方ないと思いますが、“働く女性応援！「私らしく生きるためのライフ＆マネー講座」”(例として)では、47名参加でアンケート回収数が17、そのうち『普通』が2名で『不満』が1名です。平均を採ると4.2で「よかった」という話になりがちですが、『普通』を付けるのは心理的に「実は不満だ」と言われています。特に『不満』を付けた1名はかなり不満だったと推測されます。

事務局にも講座に参加してもらい、今後は、報告書にプラスして、アンケートも必須にした方が良くように思います。

【副会長】

アンケートの方法も5択ではなく4択(『普通』がない)にするなど、検討した方がいいのではないのでしょうか。

【事務局】

「働く女性応援！「私らしく生きるためのライフ＆マネー講座」に担当が参加していたかは確認が取れていませんが、今年度はできる限り報告ができるよう、諸々検討して参ります。

【副会長】

「市民企画講座」を採択した後、運営については各団体にお任せしているのですか。

【事務局】

委員の皆さんからいただいた意見を「条件」として、講座を実施していただいています。実際の運営も団体の皆さんにお任せしています。

【副会長】

自主性を重んじるという意味では大事ですが、一方で「男女共同参画」の視点をしっかり持っていただくことは大事です。協働という意味で、「講座の内容を事前に打ち合わせをする」や「担当の職員が必ず付く」ということをご検討いただけたらと思います。

【委員】

時間をかけて審議した講座が、ちゃんと実行されているのか確認するのが事務局の仕事だと思います。よろしくお願いします。

また、「男女共同参画の視点から見る」という講座についてはオンラインが16名中12名で、会場にいる4名からしかアンケートを取れていないというのは残念だと思いました。しかも、4名のうち1名が『不満』という結果でした。

オンライン受講者からもアンケートは取れると思うので、参加した人の感想は次に繋げるにはとても大切です。やはりアンケートは義務にして、次に反映させることは大事だと思います。

【副会長】

各団体で用意している定型フォーマットのアンケートでも構わないので、まず全講座で実施することが大事だと思います。

【委員】

開催時期や日時・曜日などの要望も、アンケートの項目に入れてほしいと思います。また、回収率を上げる工夫も必要だと思います。

【会長】

会場に参加した人と、オンライン参加した人は分けて、今後実施予定の講座はアンケート実施を必須でお願いします。方法についても「ネットが苦手」という人もいるので、どういう形態だとアンケート回収率を上げられるのか、工夫が必要だと思います。

【会長】

他に質問や意見がないようなので、続いて、次第2 審議事項 第7次府中市男女共同参画計画策定に係る市民意識調査の調査票について、事務局より説明をお願いします。

【事務局】

次第2 審議事項 第7次府中市男女共同参画計画策定に係る市民意識調査の調査票について、ご説明します。

資料3「市民意識調査 調査票(案)」をご覧ください。

こちらの案につきましては、平成30年度に第6次府中市男女共同参画計画策定時の市民意識調査で実施した内容の経年比較が必要な項目と、都や国が調査する項目で市と比較することで効果的な施策へ繋ぐことを目的に項目を選定し、調査票案を作成しています。

なお、本調査は18歳以上の市民（男女）2,000人を無作為に抽出し実施します。回答方法は、用紙またはデジタル形式で回答いただけるよう準備を進めています。

協議内容としましては、調査票案の項目や文章の表現などについてご意見等をお願いいたします。

まず、事務局より順を追って各項目の説明をさせていただきます。1ページ目の導入文について、読み上げます。

（導入文 読み上げ）

なお、記入にあたってのお願いとして、今回は回答方法を紙だけではなく、デジタルで回答いただけるように支援業者と準備を進めております。右下の「二次元コード」から読み取り、デジタルでも回答いただけるような形式をとっております。

続いて、回答者の属性項目についてご説明します。

前回の調査票では性別、年齢、職業、世帯構成、婚姻の有無を属性としてご回答いただいておりますが、支援業者とも協議し、計画策定に反映が難しい項目は削除をし、資料3の2ページ目に記載しておりますように、性別と年齢のみの項目に絞りました。

【会長】

初見で本日中に結果をまとめるのは難しいと思います。一度持ち帰って再度検討した方が良いのではないのでしょうか。

【(株)都市環境計画研究所】

調査票は次の会議で確定ということだったので、そこで印刷に入ろうと思っておりました。その前にある程度固まって、次の会議の時にはほぼ完成の状態を目指したいので、今日お持ち帰りいただいて、2週間ぐらいで見えていただいて、ご意見をいただければと思いますがいかがでしょうか。

【委員】

日にちに余裕がないので、ある程度は今日、協議、検討することが必要だと思います。

【会長】

では、今日検討した内容をもとに、2週間後にまとめる方向ですすめましょうか。

（異議なし）

【会長】

長いので少し区切りながら、皆様のご意見を伺います。
前回調査から変わった内容、変わらない内容について、ご意見はございますか。
まず、回答者の属性項目についておねがいします。

【委員】

2,000人の無作為抽出の根拠、有効回答率は統計的に足りているのかを教えてください。

【(株)都市環境計画研究所】

統計的な数字としましては、回答者(標本数)が最低でも600は欲しいところです。600~900ぐらいです。900ぐらいまであれば十分です。その後はフラットになってしまうので600~900を目指している所です。2,000名取って、回収率が50パーセント近く行けばいいという感じではあります。ただ、その中でやはり年齢別等、細かく分けてしまいますとそれぞれがすごく少ない人数になってしまうので、そこでクロスを取った時に、果たしてそれがその年代の本当の数かどうかというのは、少し怪しくなってしまうところがあります。

【委員】

アンケートの回収率の見込みは少し甘くないですか。

【事務局】

前回のアンケート実施時の回収率は38.6%、回収数772でした。そこから2,000人としています。ちなみに市民世論調査は50%で少し高い数字です。

【会長】

毎年やっている市民世論調査より、5年に一度の男女共同参画計画の意識調査の回収率が低いのは、男女共同参画に対する市民の関心の低さでしょうか。

【(株)都市環境計画研究所】

回収率は年々全国的に減少傾向にありまして、前回38.6%あったからといって、同じだけ取れるという自信は正直ありません。ありませんが、2,000取って、600くらいはいくのではないかという想定の上に、こちらとしてはご提案させていただいております。票数が増やせれば、それはそれだけ安心ですのでそれは良いかと思うんですけども、そこ

を補完する意味で、WEBでも回答できるようにということで追加させていただいているという状況です。

【委員】

本人が答えるのが基本ですか。

【事務局】

無作為抽出ですが、年齢層は住民台帳に基づいて抽出しているので、本人が答えるのが基本です。

【会長】

次の「あなたご自身について」にご意見はありますか。

【副会長】

属性について、ある程度の項目の削除は理解できますが、やはりもう少し増やした方がよいのではないのでしょうか。

【会長】

「あらゆる分野における男女共同参画について」について、説明をお願いします。

【事務局】

設問1についてご説明します。こちらの項目は前回の市民意識調査の際も設定しており、経年比較を目的に設問としました。各分野における、市民の方の「男女共同参画」に関する意識、認識を聞く項目です。

設問2について、こちらの項目は前回の市民意識調査の際も設定しており、経年比較を目的に設問としました。性別役割分担意識について聞く項目です。

設問2-1、及び、設問2-2については、新設の項目になりまして、国の「男女共同参画社会に関する世論調査」と合わせて設定し、国の状況と比較をできるように設定しています。

性別役割分担意識に対し、賛成、反対の回答に対し、理由を確認することで課題の洗い出しを行い、施策に反映することを目的としています。

設問3について、女性活躍推進の観点から設置した設問で、こちらの項目は前回の市民意識調査の際も設定しており、経年比較を目的に設問としましたが、社会情勢等を考

慮し、昨年度に実施した世論調査より、各項目の設問を若干、訂正し実施しているため、世論調査の際の項目に合わせ、選択肢が変更されています。

設問4について、教育現場における男女共同参画の観点から設置した設問で、こちらの項目は前回の市民意識調査の際も設定しており、経年比較を目的に設問としました。また、こちらの選択肢も、社会情勢等を考慮し、一部表現を変更しています。

設問5及び 設問5-1については、東京都の「男女平等に関する世論調査」に合わせて設定し、都の状況と比較をできるように設定しています。

今回は、「参加していますか？」に対して、「参加している」「参加したいができていない」「参加するつもりはない」の回答項目としています。なお、「地域活動が分かりづらい」という意見が事務局内でありましたので、例を掲載しています。

また、問5-1では、参加できない理由を確認することで課題の洗い出しを行い、施策に反映することを目的としています。

設問6については、災害対策における男女共同参画の観点から設置した設問で、こちらの項目は前回の市民意識調査の際も設定しており、経年比較を目的に設問としました。

設問7については、男女共同参画に関するワードに関する認知度を確認することを目的に設置した設問で、こちらの項目は前回の市民意識調査の際も設定しており、経年比較を目的に設問としました。一部選択肢につきましては、社会情勢等を考慮し、項目を削除しています。

【会長】

ご質問、ご意見はありますか。

【委員】

問4で「男女の性別を排除」となっていますが、性別の問い方「男性」「女性」「回答しない」ではなく「男性」「女性」「その他」「回答したくない」のほうが良いのではないのでしょうか。

【委員】

設問の数字のふり方（順番）は、文章構成上、縦に並んで2列にあった方が見やすいと思いました。

【副会長】

「その他」の表記が「何者でもない」と感じる人もいるとは思いますが、今回は「回

答しない」を入れたうえで、ご自身のアイデンティティによる主観として「その他」を入れることに賛成です。

【会長】

では次に「仕事と生活の調和について」の説明をお願いします。

【事務局】

『ワーク・ライフ・バランスについての設問（経年比較を目的）』

設問8 ワーク・ライフ・バランス対して、理想とする意識に関して調査する目的

設問9 ワーク・ライフ・バランスに対して、現状の意識に関して調査する目的

設問11 ワーク・ライフ・バランス推進の取組に対し市民の意識を調査する目的

『ワーク・ライフ・バランスについての設問（新設項目）』

設問10 東京都の「男女平等に関する世論調査」に合わせて設定し、都の状況と比較をできるように設定した新設項目です。昨年度の育児介護休業法の改正など、国をあげての「男性の育休」「男性の介護休暇」の推進という動きから、府中市内における男性の育休、介護休暇への意識を確認するための設問となっております。

『ワーク・ライフ・バランスについての設問（更新項目）』

設問12 ワーク・ライフ・バランス推進のための環境整備として、市に要望する取組を調査する目的で設置した設問で、こちらの項目は前回の市民意識調査の際も設定しており、経年比較を目的に設問としていますが、社会情勢等を考慮して選択肢の文章を更新しています。

【会長】

ご質問、ご意見はありますか。

【委員】

問11についてですが、男女平等や多様性社会の推進の中で一番ネックになっているのは、男性側の働く意識がいまだに昭和であり、固定化していることだと思っています。この設問に、例えば男性にフォーカスし、働き方を変えていくような選択肢（例：転勤をするしないの選択、男性の育休の促進）を加えてもいいのではないのでしょうか。

【副会長】

「7.テレワークなどの多様な働き方の導入」をもう少し分解し、具体的な項目を増や

してもいいのではないのでしょうか。例えば、テレワークの際の働く場所、短時間勤務、週休3日制の導入、副業の促進など。

【委員】

例えば「1.長時間労働の削減」を「働き方改革の導入」・「両立支援」・「自己啓発」というような形で並べた方が回答しやすいと思います。

また、問10と同様に、問11と問12にも「特にない」を加えた方がよいのではないのでしょうか。

【(株)都市環境計画研究所】

選択肢についてですが、経年比較をするときに同じ選択肢にしておかないと、パーセントを比較しにくいってところもありますし、東京都とか国のものと同じ選択肢にしとかないと、やはり割合が取りにくいところがあるので、この調査票の中で揃えるというよりは、設問ごとで今揃えている状態になっています。

問11については大きく内容が変わるのであれば、後ろの方、「その他」「特にない」等を追加しても問題ないかと思われます。

【会長】

問11は色々意見が出たので、再検討をお願いします。

【会長】

では次に、「人権が尊重される社会の形成について」の説明をお願いします。

【事務局】

設問13 東京都の「男女平等に関する世論調査」に合わせて設定し、都の状況と比較をできるよう設定した新設項目です。配偶者やパートナーに対する暴力についての意識啓発も兼ねて設問としました。

設問14 配偶者やパートナーに対する暴力の現状を伺う項目（経年比較目的）

設問14-1については、相談窓口へのつながり状況を把握するための設問（経年比較目的）また、設問の下に、回答者が相談したいと思った際の相談先紹介として、女性問題相談のご案内を記載しています。

設問15 配偶者やパートナーに対する暴力への対策や防止について市へ希望する事業を伺う項目（経年比較目的）

設問 1 6 セクシュアルハラスメントの現状を伺う項目（経年比較目的）

設問 1 7 セクシュアルマイノリティの人権について調査する項目（経年比較目的）
また、選択肢として「4 パートナーシップ宣誓制度の周知や支援の充実」を加えています。

【会長】

ご質問、ご意見はありますか。

【委員】

全体を通して、セクシャルマイノリティに関する設問が問 1 7 だけなのは、少ないのではないのでしょうか。過度に取り上げる必要はないですが、あっさりしすぎている気がします。

また、そもそもの前提として、「L G B TまたはL G B T Qを知っていますか」という設問が必要ではないのでしょうか。

【会長】

次の「男女共同参画社会づくりに向けた市の施策について」の説明もお願いします。

【事務局】

設問 1 8 男女共同参画センターの認知度を調査する項目（経年比較目的）

設問 1 9 男女共同参画センターの機能として、市民が希望する内容を調査する項目（新設項目）

設問 2 0 府中市が「女性が活躍できるまちであるか」という意識について調査する項目（新設項目）

設問 2 1 男女共同参画社会実現に向けて、市民が特に力を入れてほしい分野を調査する項目（経年比較目的）

【会長】

ご意見はありますか。

【委員】

府中市には「プラッツ」と「フチャール」がありますが、フチャールに限定せず、市全体の「多様性社会」「男女共同参画社会」の取組として、トータルで表現した方がよい

のではないのでしょうか。

【会長】

「プラッツ」に比して「フチュール」の認知度は圧倒的に低いので、今回は「フチュール」に限定する形でもよいのではないのでしょうか。

【委員】

「他の府中市内の施設を利用したことがありますか」というような設問も加えてもいいのではないのでしょうか。そうすれば、認知度の差分がわかるのではないのでしょうか。

【委員】

個人の自由度の高い働き方ができるかが協働の本当の意味ではないのでしょうか。

【会長】

全体を通して、何かご意見はありますか。

【委員】

性的マイノリティの設問については1つだけでいいのか、私も同様に感じています。次回の計画では、多様性は一章をなすものになるかもしれません。

また、最初の「あなたご自身について」に項目を絞った点につきましては、「仕事と生活の調和について」の設問を踏まえて、「就労の有無」は「はい」「いいえ」で答えられる程度は必要なのではないのでしょうか。

また、経年比較において、設問自体を変えなければ、内容は今時のものに少く変えてもいいのではないかと思いました。

【会長】

時代の変化が激しい時代ですから、経年比較とはいえ、内容(選択肢)は少し変えてもいいのではないかと思います。

【委員】

「男女」「男性」「女性」の意識に対する質問のなか、問11だけ突然、性的マイノリティに関する設問があるのに違和感があります。その整合性を教えてほしいです。

【事務局】

まだ「女性活躍推進法」であったり、女性の管理職の比率など、「男女」で比較して、女性の比率が少ない部分の解決ができていません。性の多様性の部分も視野に入れていかななくてはいけないのはもちろんですが、一方で「男女」の家事分担や役割分担の意識を解決していくのも大事で、両輪でやっていくのが難しいのが現状だと思います。

「男女共同参画」がクリアになった段階で、多様性社会推進が進むのかもしれませんが。

【副会長】

両方の問題に携わっている立場からすると、「男女共同参画」と「多様性社会推進」は両立するものだと思います。「ジェンダー」の問題がクリアになっていくことで解決できることもあり、同じ枠組みで取組んで問題ないと思います。

「女性の不利」や「男性の生きづらさ」などの社会的な構造はまだまだあるので、「男女共同参画」の看板を掲げたうえで、性的マイノリティについても考えていくべきだと思います。

【委員】

安易に「男女共同センター」を「多様性センター」に変える自治体もありますが、かえって解決できていない問題が置き去りになり、ぼやけてしまう気がします。

ただ、「男女のジェンダーの課題を解決しないと、性的マイノリティの問題ができない」のではなく、多様な性のあり方を認めることで、男女の旧来型性的役割を変えるスピードが速くなると考えています。そこは別ではなく同じ枠組みで考えるべきだと思います。

【会長】

アンケートもそのうち、性別に男女をとらない時代がくるかもしれませんが、現時点では「男女共同参画」として調査を実施したいと思います。

今回の意見を踏まえて、2週間後までにご意見をお願いします。

事務局は各委員からの意見等を反映し、調査票の作成をお願いします。

続いて、次第 3 その他 について、事務局から何かありますか。

【事務局】

事務局からは4点ございます。

1点目は、本日お配りした市民意識調査の資料を、お持ち帰りご検討いただいた上、2週間後の8月4日（金曜日）までにご意見をお寄せください。

2点目は、前回の議事録を公開しましたので、ご承知おきくださいませ。

3点目は、第三者評価の資料として本日お配りする予定でした「別紙3」の資料について、担当課より訂正依頼があり、また、事務局でも再度確認を要する事項があったため、来週、改めて郵送させていただきます。

4点目、6月24日に男女共同参画週間の記念講演会を実施したところ、とても好評だったため、オンデマンド配信を予定しています。8月以降に市のHPで公開します。URLをメールで共有させていただきますので、ぜひご覧になってください。

(今後の会議の日程調整)

第3回を 8月24日(木)午後2時~4時

第4回を 10月25日(水)午前10時~12時といたします。

【会長】

それでは本日の会議は閉会とします。ご出席ありがとうございました。